

つながり、広がる

〜喜び、真似を経て〜

足羽学園では、11歳から22歳までの幅広い年齢層の方が利用されています。年上の利用者の方がお手本になり、優しく声をかけます。年下の利用者の方はそんなお兄さん、お姉さんの後ろ姿を見て成長します。

今回は、利用者の方同士が自然な形で広がる、つながりを紹介します。



2人はいつも仲よし

【浮かび上がる存在】

ある日の職員同士の会話で、こんな話が出ました。「最近、AさんとBさんってよくお手伝いしてくれるよね。特にAさんは今まで以上に頑張っていると思う」

Aさん、Bさん共に、現在養護学校の高等部3年生。そんな2人の姿は、約2年半前に足羽学園から足羽ワークセンターに移行した利用者の方の姿が受け継がれ、成長していると感じています。当時AさんもBさんも高等部1年生でしたが、当時どのように感じていたの

か、お手伝いを続けるようになったきっかけは何だったのか、インタビューをしました。

【感謝され、うれしい、楽しい】

Q. 先輩の2人が足羽ワークセンターに移行して、どう感じましたか？

Aさん：寂しかった。でも、僕も足羽学園で頑張ろうと思った。

Bさん：ワークセンターに行っても頑張ってほしいし、僕も頑張ろうと思った。今も夏祭りや交流で会えるのはうれしい。

Q. 職員のお手伝いをしてくださったたり、年下の子に優しく接して下さっているきっかけは何ですか？

Aさん、Bさん：職員に「ありがとう」と言ってもらえたのがうれしかったから。

Q. 帰省や外出で家に帰ったときもお手伝いをしてい

るんですか？

Aさん：洗濯物を畳んだり、片付けたりしているよ。
Bさん：あんまりしていないなあ。

Q. お手伝いをしている時はどんな気持ちですか？

Aさん：疲れることもあ
るけれど、楽しい。
Bさん：頼りにされているのがうれしいし、楽しい。
ずっとしていると疲れるけれど、少し休憩したらまたしようって思う。

いつもお手伝いをしてくださってありがとうございます。
（職員一同）



寝る前に洗濯物を運ぶお手伝い

【僕、私もするよー！】

ふと日々の生活を見てみると、彼らだけではなく、

年下の利用者の方もお手伝いをしてくださっていることに気づきました。職員に「〇〇のお手伝いをしていただけませんか」と声をかけられてされる方もいれば「僕、食堂掃除の手伝いする

よ！」「トイレ掃除の手伝いしようか？」と自ら積極的にお手伝いをしてくださる方もいます。

また、あるときは中学部の女子利用者の方が、高等部の男子利用者の方の車いすを押し、一緒に食堂に向かう光景が見られました。自然と手を差し伸べていて、その男子利用者の方も笑顔

を見せていました。それはとても温かい場面で、感謝を受けました。



他の利用者の方が途中でやめても、最後まで丁寧に掃除をしてくださいます

私たちが家庭や学校で経験してきたように、年下の子は年下の子の世話をしたり、年下の子は年上の子の真似をしたりします。そして知らず知らずのうちに次の世代へと続いていきます。そういつたつながりが、足羽学園の利用者の方の中でも、ごく自然な形となつてこのように現れているということは、それぞれ利用者の方同士で支えあっているということではないでしょうか。私たち職員はそのつながりが広がるよう声をかけ、感謝の言葉をたくさん伝えていきたいと思えます。

みんなの広場

職員紹介～NEW FACE～

4月に足羽東保育園より異動してきた野坂保育士を紹介します♪

- Q. お名前は？ A. 野坂 郁江です。
 Q. 休日は何をしていますか？ A. ピアノや部屋の掃除です。
 Q. 今ハマっていることは？ A. ウォーキング♥



- Q. 足羽学園に異動して感じたことは？
 A. 足羽東保育園でもそうでしたが、利用者様の純粹さをとても強く感じます。
 Q. 今後の目標をどうぞ！
 A. 足羽東保育園で学んできたことを活かしながら頑張りたいです(^o^)/